

企業名：DIC

レポート名： DIC の統合報告書についての考察

1. この会社が目指す姿が理解できるか

概ね理解できるといえる。特に持続可能性とグローバル化という2点に力を入れて取り組んでいることがこのDICレポートにおいて「THE DIC WAY」として表現されている経営理念から読み取れる。欧米諸国に比べて日本ではあまり進んでいるとは言えない持続可能性に着目しており、その実現のための取り組みも提示されており理解ができる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「新たな社会価値の創出に貢献する取り組み」の章の中で紹介されている製品、例をあげると原料の20%にバイオ資源を活用した梨地フィルム「DIFAREN A744Bio」では環境対応で他社と差別化を図るといふ狙いが書かれているが、競合他社のバイオ資源を使用した同製品の情報や20%という数字がどの程度環境への影響を軽減するのか、また以前の同社の製品と環境面その他コストにおいてどの程度の違いを生むのかが明確に示されていない。したがってサステナビリティを重視した製品開発という視点は評価できるが他社と比べてそれが特段優れているか、優位性を持っているかどうかはこのDICレポートからはあまり読み取ることができない。(優位性は他との比較によってはじめて定義されるのではないか)

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

DIC レポートから、競争優位性はグローバル化(多事業展開)とサステナビリティにあるのではないかと考えられるが、グローバル化(多事業展開)については持続性が高いと感じた。多事業展開によりあるセグメントにおける損失を他のセグメントによって補填できるからである。しかし手を広げる範囲が大きい分急激な成長は見込めず、持続性はあるが発展性は薄いといえるかもしれない。サステナビリティについては環境に配慮した省エネルギー製品の開発も進んでおり持続性はあるのではないかと。総じていえば、DICの優位性の持続性については理解することができるといえるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

自身の人的資本の価値向上を達成できるかは、どちらかといえば思う。特にレポート内のグローバル経営のためのナショナルスタッフの育成と登用の取り組みにおいて、幹部人材の最適配置する構造が整備されていないことが懸念点であるといえる。評価できる点は、

まずは多様な人材の登用を掲げ、様々な専門知識を持った外国籍社員を登用している点だ。また、価値向上を目指すための重要な基盤である労働環境が整備されていることは強みであると感じる。具体的には仕事と家庭の両立支援やフレックスタイムの大幅拡大、テレワークの推進、健康作りの促進（健康優良法人に4年連続認定）などだ。そしてグループ内で統一された評価基準を持っていることも評価できる。人材育成体系も DIC リーダーシッププログラム、DIC スキルアッププログラム、DIC キャリア開発プログラムそして DIC アクションセットプログラムなど充実していると感じる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的には事細かに書かれており充実した内容だったといえるだろう。改善点として考えられるのは、DIC 独自の優位性について具体的数値を用いて示したものとよりよいと感じた。DIC は環境に配慮したサステナブルな取り組みとグローバルな取り組みが強みであると考えられるが、過去の DIC または競合他社の環境へ配慮した取り組みと比べてどのような点で、どの程度優れているかを示すことにより企業自体の、また企業の取り組みの価値が可視化されより伝わりやすくなるのではないかと感じた。